

人てつづる保育史

アルウィン・ベラ

—伝道保育と生活教道—



▲“GYOKUSEI HOBO YOSEI SHO” (1924) ヨッ

松村康平



はじめに

日本保育学会第二十九回大会第二日（一九七六年五月十六日、お茶の水女子大学講堂）に開催の「人てつづる保育史—先人の歩みを見つめ直す—」において、私は次の表題「アルウィン・ベラー伝道保育（幼稚園教育）と生活教道（保母養成）」で発表した。その際にプリントとスライドを併用した。参考資料としたのは主として次のものである。「玉成五十年」「玉成六十年の略史」（一九一六—一九七五年）。「フレibelの恩物の理論とその実際」「フレibelの恩物—手技・工作編—」。「全国幼稚園関係者大会記録」（文部省普通学務局、大正五年三月）

ほか。金井うた、山本博子、青木八代、成沢貴代子、南富美代との談話録、梅村和子および筆者の回想、など。本誌への執筆は、大会発表経過の概要を述べてからプリント内容を中心に進め、おわりに、大会発表後に依頼を受けて「キリスト教保育」誌に執筆したものを、アルウィン・ペラと筆者との関係の一端を明らかにする目的で、掲載させていただく。

## 大会発表経過の概要

発表は、私の回想から始まる。

私には、積木を持ち運んだ経験が印象深く思い浮かぶ（私は玉成幼稚園の第七回卒園生である）。その積木は木製で、大きいものを下にだんだん積んでいくと、十箇は積めたであろう。積みおえてから、一番下を両手ではさむように持ちあげて、ソロソロリと部屋のすみからすみへ運ぶ。そーっと持ちあげて歩こうとするとグラツとする。足をとめてジーツと持っているゆれがとまる。そこで歩き始めるとグラツグラツとなる。幾度かガラ、ガラツとくずれたのであろう。けれど、いま思い出せるのは、グラグラするととまって、とまってはまた歩き始めて、そうして持ち運ぶことのできた積木のことである。目と手

がいっしょに足もはたらき、注意深くしなければ持ち運べない。このことの認識に立って、幼稚園ですることのなかにいれておられたのかと考えられる。

スライドをうつしての発表にうつる。

○若い日のアルウィンさん（幼稚園でわたしたちはアルウィンさんと呼び、先生とは言わなかった）

○全国幼稚園関係者大会記録（大正四年開催の大会）で、「モンテッソーリ女子史の教育を觀て」を発表

○玉成幼稚園（大正十一、二年ころ。「確か上のほうのどこかにわたくしがいるはず。ハイッ、次」）

○玉成保姆養成所卒業生たち

○恩物のスライド、ほか  
プリントの内容に即して。

○生誕（一八八二年十一月二十四日）

○経歴

○玉成幼稚園、玉成保姆養成所

○逝去（一九五七年六月十二日）

○保育

○保育者

○保育者養成者

○養成所卒業生たちに育っているもの。幼稚園卒園者たちに育っているもの。わたくし自身、積木を連んだ体験を思い起こし、スライドで恩物の手技・工作編をみていて、自分でした経験が思い出されて、ここで、いま、この手がそのように動くのが感じられる。

### 生誕、経歴（一九一四年まで）

アルウィン・メラ (Miss Sophia Arabella Irwin)

○一八八二（明治十五）年十一月二十四日、東京芝罘町、ハワイ公使館において生誕。父はロベルト・ウォーカー・アルウィン（ロベルトの母はベンジャミン・フランクリンの曾孫ソフィア・アラベラ・ベイチ）。ロベルトは一八八一年日布修好条約締結と同時にハワイ公使。武智（生家は林）イキと結婚。長女、日本キリスト教会で洗礼（一八八七年）。

○東京築地の語学校で小学校課程修了、ほかに英・仏・日本語を習得。フィラデルフィア・ハミルトン市の祖母ベイチの許に（一八九五年）。同市でマダム・サトン経営の寄宿学校に入学（一八九六年）、最優秀賞を受け卒業、日本へ（一九〇一年）。書道、華道、箏曲、絵画および日本古典文学、日本美術史など

を学ぶ。父の所有する伊香保の別荘で日曜学校が始められ、マタイ伝十八章第一節から第六節までの聖句を身に沁みて感じ、一生涯の方向が決定。日露開戦、篤志看護婦を志願、日曜学校は継続。激務に健康を害し、転地と将来の目的達成のため再度留学（一九〇六年）。ドクター・カネルから英語、数学、ラテン語、マカダム教授から英文学、心理学、ドクター・ワロンから四年間個人教授で体操、ミス・シエトキから四年間個人教授でリズム体操、遊戯音楽を学ぶ。フィラデルフィア・ドルクス化学栄養学校で一年間栄養学、家政学を学び卒業。ミス・ハート経営のキンダーガーデン・トレイニング・スクールに入学（一九〇九年）、児童心理学、フレイベルの恩物および母と子の遊戯、歴史学、哲学、英文学、聖書学、教育学（各国の教育史を含む）、童話学を学ぶ。実習はスター・セツルメントを選び、スラム街の幼児の保育。夏休みにイタリア（ローマ）での世界日曜学校大会に出席、ヨーロッパの幼児教育の現状にふれ感銘を受ける（一九一〇年）。最優秀の成績で卒業。フレイベル研究のため、コロンビア大学に入学、短期講習を受ける。米国各地の幼児教育の現場を視察、日本へ（一九一一年）。伊香保の日曜学校への迫害にあう。待望のヨーロッパ留学（一九一三年）。ドイツ、マリエンタール・フレイベル学園で短期講習、

フレイベルの教育の真髓にふれる。イタリア、モンテッソーリ児童の家(ローマ)に入所、親しくモンテッソーリの指導を受け、同所卒業(一九一四年)。スイス、フランス、イギリスなどの各地の幼児教育を視察して日本へ。

### 玉成幼稚園、玉成保姆養成所

○保姆養成所設立の準備を始める(一九一五年)。自宅で研究会を開き、教えを請うものに新教育の理想を伝える。全国幼稚園関係者大会(八月、フレイベル会主催、会場・東京女子高等師範学校)閉会に続く会員懇談会で請われて談話「モンテッソーリ女史の教育を観て」。

○私立玉成保姆養成所設立、認可(一九一六年、東京麴町区土手三番町。幼稚園は前年から始められていた)。関東大震災(一九二三年)により校園舎大破、保姆養成所は小石川原町の渋沢子供の家に、幼稚園は麴町上二番町の松村邸内に移転。渡米(一九二四年)、コロンビア大学での幼児教育研究、校園舎の基金募集などのため。幼稚園は牛込弘方町穂積邸内に移転(一九二五年)、さらに麴町三輪田高女隣地に民家を借入れて移転。玉成幼稚園を玉成保姆養成所附属幼稚園として届出、認可

(一九二六年)。

○校園舎新築(一九二七年、東京市外高井戸中高井戸)。研究科を併設。東京市社会局の委託により、東京市隣保館および二葉保育園その他の福祉施設から派遣の指導者のための托(マ)児科を開設(これは一年間のみ)。

○第二次大戦。米国帰国の要請あり、日本国籍に帰化「有院密行」(一九四二年)。教育を継続、第二十九回卒業生六十三名(一九四五年)。校園舎は岩崎通信K・Kに渡る。疎開。終戦、十一月上京。杉並区大宮前日本キリスト教団西荻窪教会(母イキの生前献堂の建物)で養成所を再開。幼稚園は杉並区大宮前の杉並区役所出張所の旧家屋を借受けて再開(一九四六年)、次いで杉並区西高井戸の「玉成寮」に移転。

○学制改革にともない、アルウィン学園玉成高等保育学校と改称(一九四八年)。財団法人アルウィン学園設立。校園舎新築(一九五二年)、杉並区松庵十五番地。幼稚園令によりアルウィン学園玉成保育学校附属玉成幼稚園と改称(一九五六年)。学制改革に基づき玉成高等保育学校は二年制となる(一九五七年)。逝去(一九五七年六月十二日)。

## 保育、保育者、保育者養成

○保育Ⅱ神と人との関係発展を希求する伝道保育であるといえる。それは、祈りの保育として展開する。

○保育者Ⅱ神と子どもと保育者との関係にあって、神と共にある子どもの神性に感じ、学んで、保育者であることへの自分にきびしく、自己を反省し、自己研鑽に励まなければならぬ。

○保育者養成者Ⅱ・神に導かれてあることを自覚する保育者として、保育者へ育つ人たちと共にあって、内面的な批判に鋭く、信念の人として、生活を共にしなければならぬ。そこには「生活教道」があり、それは、感じることに訴える共感への教道として展開する。・生活教道の保育者養成者は、保育者へ育つ人たちの、神との交わり、自然との交わり、文化との交わりが、豊かなものとなるように、ふるまわなければならない。

## 生活保育の実際、逸話ほか

○保育内容Ⅱ・会集について。会集の原題：Morning circle.

Religion circle, Intelligence circle, Educational circle, サークルとは、縦の教育循環の教育。始めも終わりも高いも低いもない。・プログラムについて。奏楽、祈り、讚美歌、挨拶、暦、歌およびリズム遊び、話。

○保育活動Ⅱ・子どもたちは自分の好きなテーブルにいき、作ったりかいたりした。ままごと遊びをしたり大きな積木で家をつくったり、思うままに遊んでいた。先生は子どものよい相談相手になること、子どもの考えより一歩先を考え、先には手をくたさないこと。先生はたくましい想像力をもっていなければ。自然に恵まれた環境で、一本の枝、一枚の葉も、自然のままにしておく先生の心には、伸びようとする小さい子どもの芽をつまない考えが。「子どもには完全に近いものを示すこと、それが人間の教育の根本。うそを言わない」・「子どものよいところをできるだけのばす、よいところを見つけだす先生であること。してはいけませんと言わないで、ただこうしましょう、と」

○保育者養成活動Ⅱ・「ピアノ室で夜おそくまで練習したり、掃除にやかましい先生がへはたいて、はいて、ぬれたんでふいて、かわいたんでふいてください」と歌うようにいわれるのを、私たちが口ずさみながら掃除をし、壁から三センチはなし

て机を積むことも忠実に実行し、部屋を大事にしたものだった」・「宇宙が常に回転し続けているように、私たちの心の棒から出る車の輪を回転したならば、世界中の輪が快よく回っていく」「自分自身の向上のために忠実に」「神のうるおす知能をしぼり、生命を尊び、よいところを見いだしのぼしていくことが、神のみにかなうこと」・「お手本になる人でなければ、すぐ間にあう人でなければ、先生と呼ばれる資格はない」「自分自身に非常に厳しくへ自分が許せない」ということもよく言われた」・「保育実習で子どもの役をとられ、机の下にもぐりこんだり、まわりにあるものを何かに見たててへ日本の子どもはおとなしい。西洋の子どもは二、三分分になります」とおっしゃってふるまわれた」・「メモ帳を片手に、首の前に鉛筆を。そして記録を」・「きびしい授業の中に暖かさ・おもしろさ。突然へアイスクリームやパンを食べたいかたは手をあげて」と流暢な日本語を使われ、子どものお話になる」

○平和教育Ⅱ・「自己の内に、自己の外に、追い求める平和」  
・真珠湾攻撃、日本政府やGHQからの冷たい扱いに苦難の人生を思わせても、先生の最後の受持ちのクラスであった人から、私は、そのようには一言も語られなかった先生であることを、知った。

## アルウィン・ベラ先生と私

（『私の受けた幼児教育』キリスト教保育一九七六年九月号から）

幼児のころの記憶は、たいへん、あいまいである。はつきりしているように思えることの多くが、だれかから、こういうことがあったときおぼえていることであったり、それも刻々に変わっていくものであって、私がこうしてアルウィン・ベラ先生のことを書く、そのことは、これを書くこの今の私にここで思い起こせることである。

アルウィン先生は、私の生まれるときから知っておられて、そして、私は、大正十年から、あの関東大震災をはさんで、その次の年の春まで、幼稚園での生活をして、その後も、一年に幾度かは、戦時中の中断はあっても、先生にお会いして、昇天されるまで、そして現在でも、私が「幼稚園教育」「保育者養成」の仕事にたずさわっていることで、先生と共にある体験をしている。

私たちのころの幼稚園の子どもたちは、アルウィンさんと呼んでいた。アルウィンたんと呼ぶ子もいた。保母養成所の人たちは先生と呼び、卒業して自分たちも先生と呼ばれ、日本の幼

幼稚園では先生と呼ぶならわしが、子どもたちの呼び方をも変えていったであろうし、私もここに、アルウィン先生と書いている。それは、なにか気構えて書かなければという気持ちがあったので、私には、幼稚園のときからその後も、アルウィンさんをアルウィン先生と呼んで、先生らしい先生と私とが、話をしたという、そういう記憶はない。

ごくごくまれには、ベラさんと呼ぶこともありはしなかったかと思う。私は、ベラさんとここに書くことで、そう呼んでいた私の母を想い浮かべ、また、アルウィンさんのおかあさまが、ベラと呼んでおられたのを、身近に聞く思いがする。アルウィンさんは、おかあさまを、それはそれはほんとうにたいせつにしておられた。その様子が、目に浮かぶ。目に浮かぶ光景は、私の、小学校の、それも終りごろかもしれない。その光景から私は、私の母が愛し母を愛して私がふるまった、その私自身には見えない姿のどこかを、知ることができるように思える。幼稚園での私の記憶にはなくても、アルウィンさんのこのあり方は、幼稚園にもあったはずだし、それとは異質のものを私が学んだはずはない。

その特色を「伝道保育」といえるアルウィンさんの保育と、ご両親を敬愛することとは、一体であったと思う。昼のおべん

とうどきに、アルウィンさんの、幾段にか重なった山たかべんとうがとどいて、その中味を分けていただいたことと、食前のお祈りは、記憶に鮮明である。神への祈りに、両親への感謝があったし、お米のひと粒も粗末にしないように、お百姓さんがいっしょうけん命につくってくださったものであることへの感謝があった。お祈りになじみの薄い友だちは、目をあげ、もそもそする。先生は目を閉じてこわいほど真面目である。その先生の目を閉じておられる姿、その目の閉じ方も私の目に浮かび、もそもそする友だちの様子にも気づいていた私は、すると、いつも目を閉じ続けていたわけではなかったであろう。

アルウィン先生は、子どもときの私のことを、私にしばしば話され、ご自分も含めた保育者たちが子どもに学んで育つことを、私は、感得できるようになった。そして、私は、いま、子どもたちに学び、どの子どもたちにもそのよさを認めることができる。幼稚園での先生とのかかわりは、ただそれだけに終わっていない。

(お茶の水女子大学)

追記 なお、学会発表でとりあげた逸話には、「倉橋惣三との『恩物』論争(?)」、「律動遊戯の発想はどこに」、「野口雨情の作詞への幼児教育者としての申入れ」などがある。